

# げん き がく しゃ 「元輝学舎」せんだ通信 10

児童川柳 「あいさつを 言うおうよみんなに みんなでね」

四字熟語 「夢中 熱進」(夢の真ん中に 情熱をもって進みたい)



平成24年2月10日

～校長室だより～

辰の年の扉が開いて1か月。「よ～し」と立てた目標実現へのあゆみは、やや遅行の気配。初志貫徹は誰にとっても険しい登り坂。

そんななか、ある会場で原点回帰させる感動的な作品に出会いました。本校の児童の作品も展示されていました。一筆一筆に、大胆にかつ繊細に描写・彩色されたまさに力作です。

～ 子どもの感性、表現描写に心がうたれます ～



本市では、児童の表現力向上に向け、58年前から『文集ひろしま』を刊行しています。今年度、本校からは次の9点が優秀作品に選ばれ、詩や作文が掲載されています。もうすぐ届きます。

<タイトル名>

「かえりみち」 「ぬるぬる」 「がんばったうんどうかい」 「朝のさんぽ」

「友だちがたくさんできた」 「わたしがお姉ちゃんだったら」

「もしぼくがねこだったら」 「最高のたん生日」 「最高の鼓笛隊」

ある日、ある綴り方読本に出会いました。日本語表記の根幹をなすのは漢字仮名交じり文ですが、その特徴として、言葉のなかで、客観の言葉を伝える「詞」（名詞、動詞、形容詞などは、漢字で表記する。一方、表現者自身の意図を直接表出する「辞」（助詞、助動詞、接続詞、感動詞）は、仮名で表記すると。表記のきまりだけでなく、例えば、助詞の使い方は、もでは確かに意図や状況も変わってくるもんだと納得もします。

上の児童作品もまた主張やテーマ性に魅力があり、表記の工夫も数多くみられ、味わいのある作品となっています。是非お読みください。

～ 温もりのある光景が 千田小のグラウンドに ～

ある日、グラウンドに大きな歓声と笑顔の輪が。見ますと1年生と6年生と一緒に長縄をする姿がありました。なかで、まずは、模範演技する6年生に1年生から「ウォ～、ウォ～」と声があがる。その後チャレンジする1年生に6年生からは、「ここで、こう縄に入れば、きっと跳べるよ」など、入るタイミングや場所、跳ぶコツなどが伝授されました。アドバイス後、「僕たちもすごく楽しかったよ」や「私たちも大きくなってこんなに跳べるようになったんだ」と感想や成長感を話す6年生。

その後も、両学年のかかわりは続く。今度は、グラウンドでおにごっこが始まったのです。1年生の笑顔がさらに広がり、楽しさ感が増幅する姿がみられました。同時に1年生が楽しめるようにと心遣いする6年生の姿と優しいまなざしの輪も広がっていきました。1年生と6年生のかかわりは、入学時より清掃や給食配膳などで始まり、今も休憩時間等でも交流が続いています。卒業を1か月後に控えた6年生にとって、今回のかかわりは、その集大成となる交流でした。

これらのかかわりから、6年生にはよき思い出がまた一つ増えるとともに、有用感が感受でき、愛他行動（おもいやりの心）の意味を再認識できたのではないかと思います。同時に、このかかわりを通して、上学年になる1年生は、入学してくる1年生にとって優しく、頼りになるお兄さん、お姉さんになってくれるものと思います。

